

西村茂樹
述譯

泰西史鑑
中編

二

福岡第一師範學校
(學校圖書)

分類 番號	第	號
歷史部		
ヨ-ロツ,		
種別	系	總
通史	日	次
全	冊ノ内第	冊
分番	類第	號
230.00		

24570

T 1A1

24

N 84

圖書 和圖書 遡



a 1 3 8 0 3 2 3 3 2 6 a

福岡教育大学蔵書

泰西史鑑中編卷之二

佐倉

西村茂樹蔭庇、譯

中古ノ史二

第六

希臘ノ皇帝忽加斯^{ホカス}

紀元後六百零二年ヨリ六百十年ニ至ル

○皇帝ノ崩殂セシ時、帝位嗣續ノ法ヲ定メザリシハ
東羅馬國政治ノ大關典ト云フベシ、故ニ一帝殂スル

時ハ、必ス其下ニ明党ヲ起ス、然レ氏皇帝ヲ選立スル
ハ大抵軍士ノ手ニ成リ、必ズ殺戮ノ禍ヲ經テ後帝位
始メテ定マル、或ハ威望アリテ諸人ニ畏服セル者
ハ、幸ニシテ帝位ヲ子孫ニ傳フルヲ得ルト雖、氏若
シ其間梟雄ノ者出テ新ニ帝位ニ登ル時ハ、後患ヲ防
グガ為ニ、必ス先帝ノ子孫ヲ剪滅セザルハナシ、此時
ノ史ヲ閱スルニ、或ハ人ノ眼ヲ抉出シ、或ハ鼻耳ヲ截
リ、或ハ小兒ヲ殺シテ柱ニ貫キ、人体ヲ寸断シテ死ニ
至ラシムル等ノ如キ、殘酷慘毒ノ事ヲ記スルヲ、故
舉ニ遑ラス、

○五百八十二年、皇帝毛裏修位ニ即ク、帝昏虐ノ主ニ
非ズト雖、氏柔弱ニシテ下ヲ制スルヲ能ハズ、亞挖爾
人ト兵ヲ交ヘ功ナキニ及ビ、軍士等其大將忽加斯ヲ
推シテ皇帝ト為ス、毛裏修ノ帥ウル軍士ハ皆他國ノ
傭兵ナリ、是ニ於テ忽加斯其兵ヲ以テ都城ヲ襲フ、毛
裏修都ヲ出テ加爾其頓ニ奔ル、

○忽加斯是ニ於テ其師父師父ハ原語ニ「バトリアル」
ノ教師ナリ、猶羅馬教ト去フ、希臘教ノ最上等
ニ教王アルガ如シ、ヲ脅カシテ已ニ王冕ヲ戴カシ
ム、忽加斯始メテ較場ニ出テ技ヲ觀、恩ヲ摩那非士モナヒ的
即チニ加フ、此時衆人帝ニ謂テ曰ク、先帝毛裏修猶存
緣党ニ加フ、

在セリ、恐クハ國人之ヲ邀テ帝位ニ復セシムル者ア
ラント、忽加斯聞テ深ク之ヲ然リトシ、大ニ邏卒ヲ發
シテ毛裏修ヲ捕ヘシム、毛裏修之ヲ聞キ、立リテ禮拜
堂ニ伏匿シ以テ幸ニ免カレニテヲ希望ス、然ルニ忽
加斯ノ邏卒、禮拜堂ニ入リ、毛裏修ヲ捕ヘ、遂ニ之ヲ刑
場ニ送ル、毛裏修刑架ノ上ニ立テ四顧スレバ、已レノ
六子盡ク捕ヘラレテ劊手ノ前ニ立テリ、劊手一人毎
ニ之ヲ斬テ盡ルニ至ル、毛裏修其一子ノ殺サル、ヲ
見ル毎ニ天ヲ仰テ拜シテ曰ク、皇天上帝ハ公平正直
ナリ、然レバ上帝ノ意モ亦必ス公平正直ナルベシト

毛裏修ノ李子ハ猶幼ニシテ乳母ノ懷ニ在リ、乳母帝
ノ六子ノ悉ク殺サル、ヲ傷ミ、代ルニ已ガ子ヲ以テシ、
以テ帝家ノ一綫血ヲ存セント欲ス、然ルニ毛裏修知
テ之ヲ肯ンビズ、強テ已ガ真ノ子ヲ出シ同ク刑戮ニ
就カシム、忽加斯ハ是ヲ見テ毫モ哀憐ノ心ヲ發スル
コナク、更ニ命ジテ毛裏修ノ首ヲ斬ラシム、毛裏修ハ
后及ビ其公主ハ忽加斯初メ精舎ノ内ニ幽閉セシガ
後、禍ヲ恐レテ共ニ之ヲ殺ス、此時毛裏修ノ一家此ノ
如キ奇禍ニ逢シノミナラス、共和政治ヲ唱ヘシ大族
等ノ死刑ニ處セラレシ者モ亦其數ヲ知ラズ、

○然ルニ忽加斯帝其殘虐ノ報ヲ受テ奇禍ニ遭シ
亦先帝毛裏修ニ異ナラズ、忽加斯位ニ在ルハ八年、暴
戾ノ行多シ、埃及ノ州牧ノ子希拉古流^{シラコ}其兵艦ヲ以テ
君士但丁城ヲ攻ム、都人久シク帝ヲ恨ミシガ、是ニ至
リ盡ク敵ニ應ジ門ヲ開テ希拉古流ヲ納ル、忽加斯計
出ル處ナク、都ヲ出テ遁亡ス、國人之ヲ追捕シ、皇帝ノ
衣冠ヲ褫ヒ械シテ希拉古流ノ所ニ送ル、希拉古流之
ヲ國人ニ投與ス、國人忽加斯ヲ曳テ刑場ニ至リ、初メ
ニ其手足ヲ斷テ、後其首ヲ斬之ヲ竿頭ニ貫キ、喊聲ヲ
發シテ市街ヲ巡ル、是ニ於テ希拉古流軍ヲ整テ都城

ニ入り、師父ヨリ皇帝ノ冕ヲ受ク、

第七

教王大格勒革力

紀元後六百零四年

○希臘ノ諸帝毛裏修忽加斯希拉古流其在位ノ間、共
ニ教門ノ事ニカヲ用フ、是ニ依テ君士但丁ノ師父大
其威勢ヲ増シ、希臘全國ノ師父大教長教長ノ上權
ヲ綜括シ、皇帝毛裏修ノ許可ヲ得テ、自ラ歐古墨倪^{エウクメニス}
位號ヲ稱ス、歐古墨倪ハ大師父ノ義ナリ、

○此時羅馬ニハ格勒革力第一教王ノ位ニ登ル、其教

門ニ功德アルヲ以テ大格勒革カト稱ス、教王、君士但丁ノ師父ノ驕傲ナルヲ憂ヒ、異言ヲ以テ之ヲ規シ、教門ニ明党ヲ生スルノ患ナカラシムヲ望ム、格勒革カ謂ヘラク人間ノ真貴ハ自ラ天爵ノ在ルアリ位踰ノ虚稱ハ以テ人ヲ輕重スルニ足ラズト、因テ自ラ上帝ノ降臣ト稱シ、以テ師父ノ心ヲ愧カシメントス、此名遂ニ今日ニ至ルマデ教王ノ副稱ト為レリ、皇帝忽加斯終ニ師父ガ大師父ノ號ヲ廢シ、再ビ教王ヲシテ教門ノ上權ヲ把ラシム、

○格勒革カ教門ノ為ニ功ヲ立ルコト多シ、教王其徒弟

ヲ英吉利獨逸ニ遣シ、以テ福音ヲ其民ニ傳ヘシム、徒弟等危險ヲ冒シ飢寒ヲ忍ビ、或ハ達迷斯河旁ノ無人ノ地ヲ行キ、或ハ獨逸國中ノ深林幽谷ヲ過キ、曠野ノ言語ヲ學ビ、以テ基督教法ノ根礎ヲ其地ニ敷ケリ、徒弟奧格斯丁五百九十七年、教祖誕辰ノ夜ヲ以テ、根納^{英吉利地名}ノ王^{イザラレド}以テ惕烈及ビ其國人一萬人ヲ説テ洗礼ヲ受ケシム、干^{カン}的^テ不^フ力^リノ最初ノ教長ト為レリ、○格勒革カ、多ク教法ノ書ヲ著ハシテ後世ニ傳フ、是ニ由テ又教門ノ父ト稱セラル、其文辭高妙ニシテ事理周詳ナルヲ以テ諸人之ヲ崇重セザルハナシ、格勒

革方更に教法ノ光輝ヲ増スルヲ務トメ、基督教ノ礼
拜堂ノ形ヲ定メテ楯圓ト為シ、以テ偶像教ノ圓形ノ
礼拜堂ト區別ヲ立シム、又教門ノ歌謠ヲ高雅ナラシ
ムルガ為ニ、羅馬ニ於テ歌謠ノ學校ヲ設ケテ少年ヲ
教フ此學校久シク羅馬ニ留存セリ、格勒革方固ヨリ
音樂ヲ聆クニ巧ナルヲ以テ、其改正スル所ノ歌謠、能
ク聴ク者ヲ感動セシム、世ニ之ヲ格勒革方ノ歌謠ト
稱シ、今日猶基督教門ノ礼拜堂ニ於テ之ヲ用フ、
○格勒革方其俸祿ヲ以テ多ク貧民ニ施與シ、穀ヲ裝
載セル船ヲ西濱里ヨリ買ヒ、以テ病院ヲ建テ、又日日

貧民ニ麵包葡萄酒野菜肉金錢ヲ與フルノ外、三千人
ノ貧女ニ衣服ヲ給ス、又倫巴多人亞挖爾人ヲ勸メ其
貧民ヲ賑救スルノ金ヲ出サシム、格勒革方羅馬ニ在
テ希臘人ノ為ニ爭訟ヲ決シ疑難ヲ判スル一皇帝ノ
為ス所ヨリ多シ、倫巴多人羅馬ヲ攻ルニ及ビ、格勒革
方金ヲ集メテ倫巴多人ニ遺リ、以テ羅馬ノ難ヲ解ク

第八

皇帝希拉古流

六百十一年ヨリ六百四十一年ニ至ル

○希拉古流、忽加斯ニ克テ東羅馬ノ帝位ニ登リ、勵精

シテ希臘ノ帝威ヲ盛ニセントス、帝位ニ在ルヲ三十
年、其間天幸ヲ得ルヲ多カラスト雖、民ノ望ヲ
失フヲナク、大寶ヲ其子ニ傳フルヲ得タリ、此時波
斯ノ王哥士儂勇武超群ニシテ叙利亞ヲ取リ、巴勒斯
底納ヲ畧シ、六百十四年耶路撒冷ニ在ル神聖ノ十字
架ヲ奪ヒ、更ニ埃及ト小亞細亞トヲ攻テ共ニ之ヲ降
シ、君士但丁ニ相對セル加爾其頓ニ波斯ノ國旗ヲ樹
シ、此時希拉古流希臘ノ帝位ニ在ルニ非ザレバ、其國
ノ存ハ未ダ知ルベカラザリシナリ、希拉古流ハ、手ヲ
袖ニシテ哥士儂ガ攻略ノ狀ヲ傍觀セシガ、哥士儂力

兵威ヲ以テ帝ヲ要シ、基督教法ヲ廢棄セシメントス
ルニ及ビ、帝斷然トシテ其不可ヲ陳ス、然レモ和議ヲ
哥士儂ニ求ムルガ為メニ、年々金一千塔連多量^{シト}貨幣^ノ
編卷^ハ第^{三十二}銀一千塔連多女奴一千人、絹衣一千
領馬一千頭ヲ波斯ニ送ラザルヲ得ズ、希拉古流辱
ヲ忍ンデ之ヲ行フヲ十二年、國人盡ク奮激シ、教王亦
其實貨ヲ出シテ軍費ヲ助ケンヲ乞フニ至ル、希拉
古流是ニ於テ土耳其^{トルキ}其加察^{カサ}ルメ兵ヲ合セ、自ラ羅馬ノ
上將軍ト為リ、波斯ノ軍ヲ撃テ大ニ之ヲ敗ル、哥士儂
走リテ其首都^{テシホ}的西豐^{ホン}ニ還ル、哥士儂深ク此敗軍ヲ憤

リ、罪ヲ諸將ニ歸シテ之ヲ殺ス、是ニ於テ軍士皆王ヲ
怨ム、哥士儂ノ長子ヲ思儂士ト云フ、哥士儂之ヲ廢ス、
思儂士常ニ快々タリシガ、此時ヲ以テ其恨ヲ霽サン
ト欲シ、兵ヲ起シテ王ニ敵シ、其兄弟十八人ヲ捕ヘ、王
ノ目眦ニ於テ盡ク之ヲ殺シ、其後王ノ首ヲ斬リ、自ラ
波斯ノ王ト稱シ、希拉古流ト和議ヲ講ズ、是ニ依テ希
拉古流ハ盡ク其失フ所ノ地ヲ得、十字架モ恙ナク希
臘人ノ手ニ入ルヲ得タリ、

○希拉古流外ニ在テ軍務ニ從事スル一六年、戰勝テ
君士但丁ニ歸リ、十字架ヲ耶ニ立テ凱旋ノ標ト為ス、

都人悉ク歡聲ヲ發シテ帝ノ師ヲ迎フ、國中ノ諸教院
ニ於テモ盡ク帝ノ功德ヲ頌シ、歌唱ノ聲相答フ、居ル
一數月、希拉古流儀從ヲ盛ニシ、耶路撒冷ニ往テ聖
墓ニ謁シ、親ラ十字架ヲ肩ニ擔フテ教院ニ送り、後更
ニ原所ニ復ス、此十字架ハ剛士但丁ニスタンチン大帝ノ母希勒那ヒレナ
ノ求メ得シ所ノ物ナリ、希拉古流ノ此祭ヲ、名ケテ十
字架尊崇ノ祭トイフ、爾後此事ヲ忘レザルガ為ニ年
年九月十四日、此祭儀ヲ行フト定ム、希勒那ノ十字
架ヲ得タリシ時ノ祭ハ、是ヲ十字架出現ノ祭ト名付
ケ、年々五月三日ニ之ヲ行フ、

○希拉古流晩年ニ至リ、亦大敵ノ侵攻ニ逢フ、此大敵ハ撒拉斯人一名亞刺伯人ナリ、此時亞刺伯人ノ兵威甚タ強猛ニシテ其鋒ニ當ル者破碎セザルハナシ、希臘人久シク其名ヲ聞テ恐怖セシガ、遂ニ其禍ヲ目覩スルニ至ル、今亞刺伯ノ史ヲ叙スルノ前、先ヅ獨逸國中ニ基督教法ノ行ハル、狀ヲ説カントス、

第九

獨逸國ノ基督教法ノ狀

○基督教法ノ獨逸國ニ入リシヨリ、強暴ノ風漸々變ジテ礼儀ノ俗ト為ル、然レ氏始メテ此國ニ福音ヲ傳

ヘシハ、何レノ時何レノ人ナルカ、之ヲ確定スルヲ能ハズ、古説ニ曰ク耶蘇ノ使徒彼得其門人歐加留瓦勒流麻的那ノ三人ヲ地里爾可倫共ニ方今ノ地名、普敦其連方今ノ地名、利ノ地ニ遣ハシ、其民ヲ教化セシム、民ノ正道ニ歸スル者多シ、因テ其地ニ幾多ノ教院ヲ建立セリト、然レ氏、是ハ教門ノ説ナレバ、未ダ之ヲ以テ普通ノ定説ト為スヲ能ハズ、唯此地ニ早ク基督教ノ入リ来リ、殊ニ羅馬ノ兵士多ク之ヲ崇信セシト云フヲハ、憑信スルニ足ルベキノ説トスベシ、
原註ニ曰ク、訥答利孚便殘登ニ於テ古匣中ニ銅造

ノ十字、長サ三寸許ナルヲ貯ヘ以テ人ニ示ス、其
匣モ十字モ共ニ羅馬ノ陣營ノ遺址ヨリ掘リ出セ
シ者ナリ、蓋シ此西品ハ共ニ西希利ノ時ニ地中ニ
埋没セシ者ナルベシ、註上編第一百三節ノ
文ヲ参看スベシ

○第二世ノ時比利時ノ諸邑ニ於テ教長ヲ設ケシト
云フ、ハ伊勒紐ノ書ニ記スル所ヲ以テ證トスベシ、
然ルニ紀元後三百年ノ頃、羅馬ノ方伯力周瓦路大ニ
基督教徒ヲ虐シ、是ガ為ニ亞隊斯アルタース方今ノ法蘭ノ教士
維克多流、夫思亞那ノ二人、及ヒ他爾呢克ヘルニク荷蘭ノ教
士彼敦共ニ刑死ニ逢フ、

○第四世ノ時、敦其連ト可倫ニ已ニ教院ノ設アリ、布
拉留ガ此地ノ教長ニ贈リシ教法會議ノ書ヲ以テ其
證トスベシ、三百四十四年、敦其連ノ教長塞爾瓦周地
里爾ノ教長馬西美那、撒底加ニ會シ、敦其連ハ敵人ノ
殘破ノ恐レアルヲ以テ、塞爾瓦周、其居所ヲ賣上、的里
至ニ移サントスルヲ議セリ、七百零九年、教士朗伯
多ガ聖殿ニ逢シ、地ニ於テ呼伯尔多新ニ寺觀ヲ造リ、
教長ノ居所ヲ其地ニ遷ス、此地ハ寂寞ナル田野ナリ
シガ、是ヨリ居民蕃殖シ、遂ニ一ノ都會トナル、方今ノ
列日、比利時、是ナリ、

○基督教法ハ此間ニ漸々ニ其根ヲ滋蔓ス第七世ノ
中葉教士亞滿多^{アマンド}荷蘭ノ南部^{フラインデル}發蘭德安都厄比等ニテ
教法ヲ説キ所々ニ精舎ヲ建ツ是ニ繼デ理非那耶里^{リベナ}
生等ノ教士同ク來リテ道ヲ説キ殊ニ耶里生ハ西蘭^{セイロン}
ノ地ニ入り第七世ノ時所々ニ精舎及ビ教院ヲ建ツ
第七世ノ終教士朗伯尔多ガカヲ極メテ達散得入^{タキサンダス}西
蘭人ノ内殊ニ北巴班人ヲ指スヲ教化セントセシ時
英吉利ノ教士維不老其徒十一人ト共ニ海ニ航シ荷
蘭ノ北方ノ海濱ニ着シ六百九十一年以テ其地ニ教
法ヲ弘メント欲ス維不老初メテ此地ニ來リ黑尔斯^{ヘルス}

達ノ北賓^{バビ}佛郎克^{フランク}ノ家宰ノ名ニ寄ル此時北賓弗里斯^{フリス}
ノ王拉多保脱^{ラドボルト}ト戰テ之ヲ勝ツ是ニ依テ維不老其道
ヲ説クニ大ニ便利ヲ得タリ維不老更ニ羅馬ニ坐リ
教王ニ謁シ以テ使者ノ委任ヲ得ン^テヲ欲ス教王塞^セ
爾求^ル之ヲ許ス維不老再ビ荷蘭ノ地ニ還リ更ニカラ
奮テ弗里斯人ヲ教化セントス此時弗里斯ノ疆界ハ
瑪斯^{マス}ノ河濱ニ及ビ勢カ頗ル強盛ナリ維不老多ク弗
里斯人ヲ説テ道ニ歸セシメシ後北賓ノ命ヲ以テ再
ビ羅馬ニ往久教王塞爾求維不老ヲ以テ烏特立^{ウテリ}ノ大
教長ト為ス六百九十六年維不老荷蘭ノ地ニ還リ初

メニ聖薩瓦多ノ教院ヲ建テ後ニ聖馬丁ノ教院ヲ
建ツ、此地後ニ教長ノ本院ト為ル、維不老是ヨリ四方
ニ周遊シテ道ヲ説キ、遠ク丁赫ノ地ニ至ル、維不老ノ
北巴班ニ在リシ時ハ、朗伯尔多ト力ヲ協セテ其民ヲ
教化セリ、維不老許多ノ精舎ヲ建立セシ内ニ於テ、地
里尔ノ僑ノル耶布^{エブ}的^{テル}拿^ナノ教院ハ、最モ天下ニ名ヲ得
シ者ナリ、維不老後ニ亦此教院ニ葬レリ、維不老道ヲ
説ク一三十三年、七百三十九年ニ至テ卒ス、其祭日ハ
十一月ノ第七日ニ之ヲ行フ、

○其他此時代ニ於テ教士ノ卓越セル者ハ英吉利ノ

修行士維弗黎^{フレイ}リ、維弗黎心カノ竭シテ能ク獨逸ノ
民ヲ教化セシヲ以テ薄尼哈斯^{ボニハス}ノ名ヲ得、カヲテ獨逸
ノ名使徒ト稱セラレ、薄尼哈斯ハ能ク為シ得タルノ
義ナリ、薄尼哈斯少年ノ時ヨリ已ニ大ニ志ヲ發シ上
帝ノ葡萄園ニ役事シ、生活ノ語テ以テ異教ノ民ヲ覺
サント欲セリ、法教ノ語、未ダ其
義ヲ詳ニヒズ

○薄尼哈斯精舎閑寂ノ中ニ在テ其道ヲ修メ、學徳既
ニ成ルノ後、精舎ノ長ト為リテ其道ヲ行ハント欲シ、
羅馬ニ赴キ、教王ニ謁シテ已ガ志ス所ヲ告グ、薄尼哈
斯是ヨリ弗里斯^{フリイス}ニ至リ、維不老ニ役セ、維不老ト力ヲ

合セテ異教ノ民ヲ教化シ、此地ニ在ルヲ三年ニシテ
都林其薩索尼ニ往キ、上帝ノ明訓ヲ講ズ、異教ノ徒四
方ヨリ来リ集マリ、其旧教ヲ棄テ、薄尼哈斯ニ從ヒ洗礼
ヲ受ル者其數ヲ知ラズ、薄尼哈斯其地ニ多ク精舎ヲ
建テ、之ニ學校ヲ附屬シ、以テ其民ヲ教フ、是ニ由テ獷
狂ノ野蠻化シテ礼義ノ民ト為ル者甚多シ、薄尼哈斯
再ビ羅馬ニ往ク、教王其功勞ヲ賞シ、薄尼哈斯ヲ以テ
獨逸ノ教長ト為ス、薄尼哈斯都林其ニ還リ、更ニ黒
ニ赴キ、益々上帝ノ道ヲ説キ、異教ノ偶像ヲ破壊シテ民
ノ疑ヲ解ク、

○黒西ノ闔斯馬ニ古代ヨリ雷神ニ奉獻セシ所ノ櫟
樹ノ神木アリ、傍近ノ異教ノ民雷神ニ獻ズル處ノ供
奠ヲ此樹下ニ置ク、謂フ若シ此樹ヲ斬伐スル者アレ
バ、雷神下リテ其人ヲ擊ツト、薄尼哈斯是ヲ聞キ、異教
ノ信ズルニ是ラザルヲ示サシメ、力為ニ直チニ
其所ニ赴キ、斧ヲ以テ其樹ヲ斫ル、居民大ニ驚キ、或ハ
天ヲ仰ギ、或ハ薄尼哈斯ノ面ヲ望ミ、以テ雷火ノ下リ
撃ツヲ見ントス、既ニシテ櫟樹中断シテ地ニ倒レシ
ニ薄尼哈斯ハ少シモ恙ナシ、異教ノ徒、其神ノ威カナ
クシテ、其神木ヲ護スルヲ能ハザルヲ見テ大ニ悟リ

舊教ヲ棄テ洗禮ヲ受ル者甚多シ、此頃ヨリシテ獨逸

ノ教院ニ、異教ヲ去テ基督教ニ歸スル者ノ為ニ設ケ

タル誓言アリ、此語猶今日ニ存シ、獨逸ノ古語ノ一班

ヲ徵スルニ足ルベキ者トス、其誓言ニ曰ク、

問、ホルサキスツト、デアボラ、汝ハ魔鬼ヲ棄テ去リタルカ、

答、エ、ホルサ、デアボラ、我ハ魔鬼ヲ棄テ去リタルカ、

問、エニアルム、デアボルゲルデ、其他魔鬼ノ党類ヲ棄テ去リタルカ、

答、エ、エ、ホルサ、アルム、デアボルゲルデ、其他魔鬼ノ党類ヲ棄テ去リタルカ、

問、エニアルム、デアボルゲルデ、其他魔鬼ノ党類ヲ棄テ去リタルカ、

問、エニアルム、デアボルゲルデ、其他魔鬼ノ党類ヲ棄テ去リタルカ、

カ、タル

答、エ、エ、ホルサ、アルム、デアボラ、我ハ都テノ魔鬼ノ所行ヲ去リタルカ、

ウ、ド、ウルツム、ツネール、エニデ、ウフーデン、エニデ、サ

クセラーデ、エニデ、アルレム、ツエム、ウンホルツム、ツエ

ビーラ、ダノース、ジント、我ハ都テノ魔鬼ノ所行ヲ去リタルカ、

及ビ雷ノ神（ソネール）勝利ノ神（ウラ）、我ハ都テノ魔鬼ノ所行ヲ去リタルカ、

勝利ノ神（ソネール）勝利ノ神（ウラ）、我ハ都テノ魔鬼ノ所行ヲ去リタルカ、

タル惡キ鬼類ヲ盡ク棄去リタルカ、

問、ゲロビスツ、イン、ゴット、アルマラチガン、ハデール

汝ハ都力自在ノ父ナル上帝ヲ尊信スルカ、

答、エ、ゲロボー、イン、ゴット、アルマラチガン、ハデール

我ハ能カ自在ノ父
リル上帝ヲ尊信ス

問、ゲロビスツ、イン、キリスト、ゴッデス、スノ、帝ハ子

ナル基督ヲ
尊信スルカ

答、エス、ゲロ、イン、キリスト、ゴッデス、スノ、帝ハ子

ナル基督
ヲ尊信ス

問、ゲロビスツ、イン、ハロガン、ガスト、汝ハ靈魂ヲ
尊信スルカ

答、エス、ゲロ、イン、ハロガン、ガスト、我ハ靈魂
ヲ尊信ス

○薄尼哈斯其切倒シタル櫟樹ヲ以テ、小ナル禮拜堂
ヲ作り以テ聖彼得、禮拜堂ト名ク、又夫爾達河ノ傍
ニ精舎ヲ建テ、後人ノ為ニ學校ノ基ト為ス、此地後ニ

人口繁殖シテ夫爾達邑ト為ル

○薄尼哈斯法教ノ為ニカヲ盡ス、積年、以テ老邁
年ニ至ル、牧王大ニ之ヲ賞シテ綿斯ノ大教長ト為ス
然ルニ薄尼哈斯カ勉勵、心老ニ至テ衰ヘズ、其身ノ
勢位ノ顯赫ヲ願ハズ、唯教法ノ益、遐邇ニ擴行セシ
ヲ願フ、是ニ於テ大教長ノ職ヲ他人ニ譲リ、七十歳ノ
頽齡ヲ以テ弗里斯ノ異教ノ郷ニ入り、以テ其民ヲ教
化セントス、初ノ此地ニ至リ道ヲ説シニ、民ノ正教ニ
歸スル者猶多カラズ、七百五十五年、薄尼哈斯托肢ニ
在リテ供養ノ經父ヲ讀誦シ、入教禮式ヲ行ヒシ時、弗

里斯、兇徒等党ヲ結ビテ薦入シ、薄尼哈斯ヲ殺シ、併
セテ其徒ニ及ブ、薄尼哈斯死前ノ一息ニ至ルマデ、猶
上帝ノ為ニ勤勞スルヲ此ノ如シ然レバ其死後永ク
天上ノ幸福ヲ享ルハ疑ヲ容レザル所ナリ、薄尼哈斯
、遺骨ハ之ヲ夫爾達ニ葬ル、

○薄尼哈斯ノ行ハントセシ事業ハ、其人ト共ニ地ニ
埋没セズ、其創立セシ寺觀、精舍、及ビ之ニ付属セル教
學所ハ、基督ノ教法ヲ弘ムルノ根據ト爲リ、是ヨリシ
テ其光彩ヲ四方ニ發射セリ、教士タル者精舍ノ教學
所ニ於テ、少年ノ徒ニ讀書書法、美術ヲ教ヘ、以テ諸學

ノ緒端ヲ導ト、更ニ画法ト彫像トニ及ブ、修行士ハ又
自ラ工作ノ當ニ、人間必用ノ器具、案檯、藍銀網ノ類ヲ
作ル、農人等修行士ニ從テ百事ヲ學ビ、舊來ノ陋習ヲ
改メテ日ニ礼儀ニ赴ク、

○是ヨリ以來、林莽ハ闢ケテ田圃ト爲リ、荒瘠ノ地ハ
變ジテ沃壤ト爲ル、又他國ノ民ノ種藝ニ長セル者、南
國ノ草木果實ヲ齎シ來リテ此國ノ園圃ニ移シ、又他
國ノ穀物ノ寒地ニ宜シキ者ヲ送リテ此國ノ田圃ニ
植ウ、其他食用藥用ノ草木ニ至ルマデ、漸々此國ニ入
ラザルハナシ、是ニ依テ從來兵革ヲ事ヘシ獨逸ノ

猥悍ノ民漸々變ジテ礼義アル基督教門ノ農夫ト為
レリ、又古來此國ニ祭レル品禪^{ウツギ}トイハル兇猛ナル神
祠ヲ廢テ其迹ニ基督ノ十字ヲ建テ上帝ヲ讃頌スル
雅歌、遂迹ニ相答フ、

○礼拜堂又ハ精舎ニ於テ基督誕辰ノ祭ヲ為スニ土
民此祭ニ加ハラント欲シ、四方ヨリ來リ聚ル者甚ダ
多ク、遂ニ其地ニ市場ヲ開クニ至ル、基督誕辰ノ祭ヲ
墨斯^{メス}ト名クルヲ以テ此市場ヲ名ケテ又墨斯^{メス}トイフ、
凡禮拜堂ハ上帝ノ居宅トイフヲ以テ、當時力ヲ盡シ
テ壯麗ヲ極メ、^者ヨリ、土民等多ク禮拜堂ノ周圍ニ

遷徙シ、陋矮ナル家屋ヲ作リテ之ニ居ル、此民漸々ニ
増加シ、遂ニ邨ヲ為シ、邑ヲ為スニ至ル、殊ニ禮拜堂ノ
内ニ教長ノ居アル所ニ於テハ、其邑邨最モ繁盛ヲ致
スヲ得タリ、

○是ヨリ基督教法、獨逸ノ全國ニ弘傳シ、終ニ國民大
抵此教ヲ奉ズルニ至レリ、唯僻遠ノ荒野ニ居ル者ハ、
基督教ノ教化或ハ及バズシテ、久シク異教ニ沉迷セ
ル者アリ、此民ヲ獨逸語ニ跋甸^{バディン}トイス、跋甸ハ荒野ノ
義ナリ、

○教事ノ費用ニ充ツルガ為ニ、國民其田産ノ十分一

ヲ教院ニ獻ズ、又教門ノ壯麗ヲ増サントスルヲアル
時ハ、民ノ欲スル所ニ從テ獻納セシム、

○此頃ハ貨幣ノ數甚ダ乏カリシカバ、民皆其田畠園
囿ヨリ生スル物ヲ以テ教院ニ獻ズ、此物後年ニ至リ
許多ノ價ニ抵レリ、又民ノ教法ヲ信スル者ハ、已ガ善
德ヲ行ハント欲シテ教院ニ獻納スル者アリ、是ハ其
物ヲ以テ人ニ與フルノ意ニ非ズ、特ニ是ヲ以テ上帝
ニ獻スルノ意ナリ、此ノ如ク為ス時ハ、永世ノ報ヲ受
ルヲアレバ、今日之ヲ獻ズルハ、恰モ死後ノ為ニ之ヲ
借ニ似タリ、此ノ如キ事ヨリシテ、教院精舍共ニ漸々

所有ノ田園ヲ得、又ハ多クノ租稅ヲ收メルヲ得ル
ニ至レリ、

第十

亞刺伯ノ史 地勢

○基督教法始メテ歐羅巴ノ諸國ニ弘マリ人間ノ為
ニ幸福ヲ授ケントセシ時、忽^チ獷猛暴悍ナル亞刺伯ノ
夷民東方ヨリ歐羅巴ニ侵入シ、基督教法ヲ踏碎シテ
殆^ニト絶滅ニ歸セシメントス、

自註ニ曰ク、亞^{アラビヤ}刺伯人トイフハ東國人トイヘル義
ナリ、其地小亞細亞ノ東ニ在ルヲ以テ此名アリ、亞

刺伯人歐羅巴亞弗利加ニ來リ、自ラ撒拉斯人ト稱
ス、西國人ト稱ヘル義ナリ西班牙ノ史家ハ又是ヲ
毛爾人ト稱ス、其故ハ亞弗利加ノ西部ニ毛裏達尼
トイヘル郡アリ、亞刺伯人此地ニ據リ、夫ヨリ海ヲ
渡リテ西班牙ノ地ヲ侵セシヲ以テ此名ヲ命ゼシ
者ナリ、

○亞刺伯ハ亞細亞ノ西南隅ニアル大國ニシテ、其廣
サ獨逸國ニ四倍ス、三面ハ海ヲ以テ之ヲ遠ラシ、一面
ハ大沙漠ヲ以テ亞細亞ノ大陸ヲ斷ス、西方ハ直ニ
亞弗利加ニ接シ、唯蘇士ノ地腰ヲ以テ予界ト為ス、其

地勢ヲ考フルニ、此國ハ亞細亞ニ屬スルヨリ、亞弗利
加ニ屬スルヲ以テ宜トス、マギニ似タリ、亞刺伯ノ沙
漠ハ渺茫トシテ涯際ナク、行旅ノ之ヲ過ル者ハ數日
又數週ノ間、山岳林叢泉水ヲ見ルヲナク、又鳥獸ノ聲
ヲ聞クヲナク、唯沙ト風トヲ見ルノミ、是ニ由テ太陽
ノ光焰燃ルガ如ク、百物之ガ為メニ焚燒セントス、
○若シ大風起リテ沙漠ヲ颺動スル片ハ平地忽變ジ
テ火海ト為リ、黃沙起伏シテ波濤ノ如ク、須臾ニ山岡
溪谷ヲ現シ出シ、是ガ為ニ商隊ノ全夥ヲ埋没スルニ
至ル、又此沙漠ニ煞悶トイヘル風アリ、殺戮ノ天使ト

稱スル毒風ニシテ、毎ニ亞刺伯ノ沙漠ヨリ亞弗利加ニ向テ狂ヒ吹ク、此風ニ當ル者ハ、人獸共ニ其呼吸ヲ絶シテ死ニ至ル、此沙漠ノ間、處々ニ青草ノ蕃茂セル原野、源泉ノ噴出スル平谷アリテ、其野ニ多ク椰棗樹ヲ生ス、其状恰モ海中ニ島嶼アルガ如シ、故ニ之ヲ名ケテ沙島ト云フ、亞刺伯ノ民ノ此沙島ノ中ニ住スル者、多ク盜賊ヲ以テ業ト為ス、此民ノ最モ寶トスル者ハ駱駝ナリ、駱駝ハ此沙島ヨリ彼ノ沙島ニ赴クノ舟ノ如キ者ニシテ、若シ此獸ナケレバ、決シテ此地ニ居住スルヲ得ズ、駱駝ハ其小ナル時ヨリ、既ニ駄ク飢

渴ニ堪ヘ、勞動シテ休息スルヲナシ、他獸ノ食ハザル處ノ野草ヲ食ヒ、八日或ハ十日毎ニ一次水ヲ飲ムノミナリ、牧人渴ニ迫ル時、其駱駝ヲ殺セバ、其腹中ニ在ル處ノ水清淨ニシテ、駄ク牧人ノ氣ヲ爽健ニスルニ足ル、又此獸ハ一週ノ間、其負擔ヲ卸スヲナクシテ、一千三百斤ノ重サニ堪フ、又其性循良ニシテ、駄ク牧人ニ馴レ、牧人歡喜ノ歌ヲ發シテ之ヲ導ク所ハ、是ヲ以テ其カヲ添テ疲倦スルヲナシ、

○亞刺伯灣(紅海)ノ西方ヲ石地亞刺伯トイフ、此地ニ伯突拉ノ邑アリ、伯突拉ハ亞刺伯語ニテ石トイフ義

ナリ、伯突拉ノ傍ニ西乃山アリテ、山間ニ溪澗泉水牧
場アリ、此山ハ往昔摩西モセガ其國人ニ上帝ノ法戒ヲ説
示セシ所ナリ、幸福亞刺伯ハ、按ズルニ亞刺伯ハ古代
為ス、一ヲ幸福亞刺伯トイヒ、二ヲ石地方今ノ也門ト
亞刺伯トイヒ、三ヲ沙漠亞刺伯トイハス、方今ノ也門ト
稱スル部ニシテ、耶里多勒灣ニ沿フテ南海ニ達スル
ノ地ナリ、此地ハ古人ノ樂土ト稱セシ所ニシテ多ク
挂枝架菲乳香ヲ産ス、挂枝ト架菲トハ早ク歐羅巴人
常用ノ品ト為リ、初メハ悉ク亞刺伯ヨリ之ヲ取リシ
ガ、近年ハ多ク亞墨利加ヨリ之ヲ取ル、乳香ハ摩西ノ
時ヨリ、猶大人波斯人希臘人羅馬人基督教人皆之ヲ

神跡ニ焚キ、其礼拜堂ハ盡ク乳香ノ氣ヲ以テ之ヲ薰
セリ、此幸福亞刺伯ニ住セル居民ハ、皆傲然トシテ自
主ヲ以テ自負シ、帳幕ノ内ニ游娛シ、以テ自ラ足レリ
トス、此民ニ而族長アリ、一ヲ塞克トイヒ、一ヲ耶米爾
トイフ、民争訟アル毎ニ小事ハ之ヲ裁決シテ平ニ歸
セシム、總テ都邑ニ居ル處ノ民ハ、大概貿易ヲ以テ業
ト為シ、商隊ヲ編制シテ波斯印度ノ貨物ヲ東羅馬ニ
輸送ス

○亞刺伯ニハ又無双ノ良馬ヲ産ス、其飛跑ノ迅速ナ
ルヲハ駝鳥ニ比スベク、其教導訓練ヲ受クベキハ

人ニ比スベシ、其性又循良ニシテ、縱令奔馳ノ際ト雖モ、人モシ鞍上ヨリ落ル時ハ必ズ立定ス、國中馬ヲ産スルヲ多シト雖モ、其良種ノ者ハ、古來ヨリ之ヲ養フ者其名ヲ記録シテ之ヲ藏ス、若シ良種ノ馬子ヲ産スル時ハ、全族ノ民、必ズ為ニ市ヲ開ク

○此廣大ナル亞刺伯ノ地ニ住居セル民族、其種類甚ダ多シ、許多ノ都邑ノ内ニ於テ黒土菴也門ノ二邑最モ舊邦ト稱セラル、沙漠ノ間ニハ又牧畜ノ民常ニ往來游息ス、牧畜ノ酋長、其帳幕ヲ張テ居所ヲ定ムル時ハ、狗ニ鈴ヲ繫ギ、以テ其周圍ヲ廻ラシム、他族ノ牧人

其鈴聲ヲ聞ケバ、必ズ之ヲ避ケ、其獸群ヲ率テ他ニ適ク、亞刺伯人ハ皆自ラ以實馬利^{イシマル}率^率伯拉^{バハラ}ノ後裔ナリト謂ヘリ、諸族ノ民、各其家ノ貴賤ヲ論ジ、是ヲ以テ互ニ相勝ン^トヲ求ム、國民ノ争鬭ハ、大抵是ヨリ起レリ、○亞刺伯人ハ殊ニ詩學ヲ好ミ、古代ヨリ默加^{ムカ}阿加突^{アカタ}ノ邑ニ於テ大市ヲ開キシ時、詩人出テ詩ヲ鬭セシ^トアリ、方今猶民ノ歌誦スル中ニ古代ノ詩篇ノ殘レル者アリ、

○亞刺伯人ノ法ハ、隣國ヲ劫掠スルヲ禁ゼズ、其故ハ上古ノ世、天下ノ土地ヲ分配セシ時、他國ノ民以實

馬利ノ族ヲ逐フテ、其所有ナル沙漠中ノ沃土ヲ奪ヒ
 シト去ツアルヲ以テナリ、故ニ他國ノ民、若シ亞刺
 伯人ノ一物ヲ奪フアレバ、必ず之ヲ報復シ、再ビ其
 物ヲ得、リレバ止マズ、然レ氏亞刺伯人ハ、能ク客ヲ愛
 シ、懇親ヲ以テ之ヲ待ス、若シ他人來リテ亞刺伯人ノ
 救援ヲ乞フアレバ、必ず性命ヲ抛テ之ヲ助ク、亞刺
 伯人ハ其性ノ誠實ナルハ、隣國ノ埃及人ニ似タル處
 アリ、又深ク教法ヲ崇信シ、沙漠ノ中、其他僻遠ノ地ニ
 閑居シ、寂寞ヲ甘ンジテ其生ヲ送ル者多シ、
 ○也門^{エーセン}ノ物産ノ多キト、全國ノ富饒ナル風説ト、地勢

ノ通商ニ便利ナルトニ依テ、他國ノ民屢、此國ヲ朧ラ
 ントセシマアリ、然レ氏亞歷山德大王^{アレキサンデル}ノ智勇ト羅馬
 國ノ強盛ヲ以テスラ、猶此地ヲ定メテ已ガ屬國ト為
 スト能ハス、其故ハ此國ハ外ニ海上ノ險アリ、内ニ沙
 漠ノ阻アリテ、他國ノ兵ノ内地ニ入ルト極メテ難キ
 ヲ以テナリ、是ヲ以テ此國ノ民ハ唯通商ヲ以テ他國
 ノ民ト相交ハルノミニテ、他國ノ民ノ羈管ヲ受シ
 トシ、此國印度ト埃及トノ間ニ在ルヲ以テ、上古ノ時
 ヨリ唯中間貿易ノミヲ行ヒシガ、第十五世ノ始、葡萄
 牙人並弗利加ヲ廻リテ印度ニ赴クノ航路ヲ求メ出

セシヨリ、歐羅巴ノ船舶亦此地ニ入ルニ至シリ、

第十一

摩哈麥及其教法

耶蘇生後六百二十二年

○此亞刺伯ノ地亞刺伯ノ民ノ中ニ回教ノ教祖摩哈麥ヲ出セリ、摩哈麥ハ耶蘇生後五百六十五年亞刺伯ノ默加ニ生ル、父ヲ亞伯達拉トイヒ、母ヲ亞昧那ト云、其家ハ哥來族ト名ケテ國ノ名族ナリ、世々默加ノ邑ノ長ト為リ、兼テ有名ノ寺觀賈巴ヲ監視ス、此賈巴ノ寺觀ニハ古代ヨリ一ノ黑石ヲ藏シテ國人皆之ヲ尊

崇ス、傳ヘ曰フ、上帝此石ヲ亞當ニ賜フ、亞當因テ天堂ヨリ此石ヲ取レリ、其後罪業洪水ニ篇卷一第十九ノ時、上帝此石ヲ天上ニ召ス、亞伯達拉亞刺伯ノ地ニ賈巴ノ寺觀ヲ建ル時、上帝再ビ之ヲ返シ賜フト、亞刺伯ノ民四方ヨリ、此寺觀ニ來リ賽スル、恰モ基督教徒ノ耶路撒冷ノ聖墓ニ行賽スルガ如シ、其來リ賽スル者ハ皆疾歩シテ寺觀ノ周圍ヲ廻ルト七回、黑石ヲ吸フ、七回別ニ小石ヲ取テ米拿ノ谷ニ投ズル、七回以テ常ト為ス、此風今日ニ至テモ猶存スル、往昔ノ如シ、

○摩哈麥七歳ノ時父母俱ニ歿ス、其遺物トシテ存ス
ル者ハ駱駝五頭ト老婢一人ニ過ギス、摩哈麥ノ祖父、
摩哈麥ヲ已ガ膝下ニ置キ、之ヲ養フ、三年ニシテ其
叔父亞吓答臘ヲシテ摩哈麥ヲ養ハシム、亞吓答臘ハ
亞刺伯ノ大商ニシテ常ニ商業ノ為ニ遠ク他國ニ行
ク、其行ク毎ニ必ズ摩哈麥ヲ携フ、

○摩哈麥幼ヨリ其体貌甚ダ美麗ニシテ見ル者皆目
ヲ属ス、摩哈麥其門地ノ貴キヨリシテ氣格自ラ高ク、
眼褐色ニシテ光彩人ヲ射ル、其言語ハ溫和平靜ニシ
テ人ト交ルニ懇篤ニシテ寛厚ナリ、故ヲ以テ國人之

ヲ愛敬セザルハナシ、摩哈麥二十五歳ノ時叔父ヲ辭シ
加雅慈トイヘル、富家ノ寡婦ニ事ヘ、誠實ヲ以テ其職
ヲ務ム、寡婦其志ニ感ジ、摩哈麥ヲ納レテ夫ト為ス、是
ニ由テ驟カニ豪商ト為ルヲ得タリ、摩哈麥其婦ノ
資ニ頼リ、際高ト為リテ諸國ヲ經歷シ、細カニ風俗人
情ヲ觀察シ、其本國ノ禮儀風俗ノ類敗シテ民族ノ互
ニ相仇怨スルヲ見テ深ク歎息シ、獨リ遁レテ荒漠ノ
地ニ赴キ、山岩洞穴ノ中ニ栖息シ、神ヲ澄シ心ヲ潛メ、
摩西基督ノ教法ヲ學ビ、以テ神學ノ奧義ヲ求ム、然ル
ニ此兩教共ニ摩哈麥ノ意ニ協ハズ、自國ノ教法ノ天

造物ヲ崇拜スルヲ以テ凡夫ノ迷溺トシテ亦之ヲ取
ラズ、摩西ノ學ハ固ヨリ摩哈麥ノ見ル所ニ違フヲ以
テ之ヲ棄テ、基督ノ學ハ未ダ其奧義ヲ得ザルヲ以テ、
小亞細亞ノ地ニ至リ、希臘人ニ就テ之ヲ學バントス、
然ルニ希臘國ニテハ此時教法ニ爭論ヲ生ジ、基督ノ
真ノ仁愛真ノ堅忍ヲ見ルヲ能ハズ、摩哈麥ハ其國人
ノ望ヲ已ニ屬スルヨリシテ、終ニ摩西基督又ビ自國
ノ三教ノ精華ヲ採リテ一ノ新教ヲ創立シ、沈迷セル
國人ヲ泥塗ノ中ニ救ハント欲ス、是ヨリ以來百事ヲ
拋棄シ、新教創立ノ外、少シモ他ニ念慮ヲ用フルヲナ

シ、摩哈麥新教ノ事ヲ以テ神異ニ託シ、常ニ曰ク、吾等
我精神ノ恍惚トシテ常ニ異ナルヲ覺フ、其時伽布哩
ルトイヘル天使或ハ天上ニ現ハレ、或ハ人ノ形ト為
リテ我前ニ顯ハレ、上帝ノ使ヲ奉シ、余ガ上帝ノ最モ
親愛セル先知人トルヲ告ゲタリト、摩哈麥屢、此事
ヲ語り、種々ノ證左ヲ執リテ、已ガ天命ノ先知人タル
ヲ、并ビニ其精神恍惚タルノ際、思フ處、見ル處、聞ク處、
皆實事ナルヲ示ス、摩哈麥自ラ先知人ト稱スト雖
氏一ノ讀ムベキ者ナク、一ノ記錄スベキ者ナシ、然レ
氏其辭古ニ巧ナルト、人事ニ詳ナルトヲ以テ、遂ニ國

人ノ信ヲ取ルニ至リ、摩哈麥初メ其現象ノ事ヲ以テ其婦、其役子^{アリ}亞厘、其友人^{スユビケル}亞厘^{スユビケル}庇結^{スユビケル}又ヒ其他ノ十一人ニ告グ、阿厘ハ此時年猶弱ナレ氏、摩哈麥之ヲ名ケテ天上ノ健獅セミ者ナリ、諸人其神異ノ説ヲ疑ハズ、皆摩哈麥ヲ以テ上帝ノ降ス處ノ先知ト為シ、亞厘庇結先ヅ信隨ノ誠ヲ顯ハス、諸人亦從テ之ニ倣フ、○然ルニ摩哈麥、本貫ナル哥來族ノ徒、盡ク摩哈麥ヲ惡ミ、謂ヘラク彼ノ新教若シ行ハル、時ハ已ガ奉ズル夷ノ教法、及ビ其監視セル寺觀共ニ衰滅ニ歸スベシト、初メハ摩哈麥ヲ絶テ之ト交ラザリシガ、遂ニ

計ヲ以テ之ノ殺シント欲シ、因テ罰責ノ文ヲ賈巴ノ寺觀ニ貼シ、以テ摩哈麥ヲ教門放逐ノ刑ニ處ス、然ルニ一與來リ、一夜ノ内ニ上帝ノ名ヲ除クノ外ハ、盡ク其文字ヲ食ヒ盡セリ、其後此地ノ審官、摩哈麥ヲ審院ニ召シ、何ノ據ル所アリテ上帝ノ命ゼル先知人ト稱スルヤヲ訊問ス、摩哈麥忽チ晝ヲ以テ夜ニ變ジ、月輪空中ニ光彩ヲ放ツ、已ニシテ月輪天ヨリ下リ、摩哈麥、前ニ至リテ腰ヲ屈シ、摩哈麥ト語リ、默加人ノ目前ニ於テ摩哈麥ヲ稱シテ上帝ノ先知人ナリト云フ、月輪摩哈麥ノ乞ニ應ジ、其袖中ヲ通過ス、是ニ由テ月輪

分レテ二體ト為リ、雲中ニ入リ、再ビ合シテ一輪ト為
ル、土耳其人ノ半月ヲ以テ徽章トセシハ、此意ヲ象ド
リテ摩哈麥ノ靈徳ヲ贊セシ者ナリ、摩哈麥是ニ於テ
捕辣トイヘル異形ノ駿馬ニ乘リテ耶路撒冷ニ往キ、
亞伯拉罕、摩西、基督ニ逢ヒ、夫ヨリ金銀寶石ノ梯ヲ踏
デ空ニ昇リ、七層天ノ最上級ニ至リテ上帝ニ謁シ、之
ト言語ヲ接シ、上帝ノ命ヲ受ケテ天ヨリ降り、再ビ捕
辣ニ跨リテ其夜ノ内ニ黙加ニ還レリ、
○上文ニ言フ所ノ事ハ、誰人モ之ヲ信ズル者ナク、摩
哈麥ノ妻モ猶之ヲ疑ヒ、謂ヘラク摩哈麥ノ胸中ニ想

愈スル所カ、然ラズニハ夢中ニ見ル所ナルベシト、摩
哈麥ハ平生癡癡ヲ患ヒ、屢々倒スルヲアリ、蓋シ其拙
掣癡癡ノ際ニ於テ、平生思想スル所ノ事ヲ夢幻ノ中
ニ見シ者トルベシ、摩哈麥ノ敵人等益之ヲ嫉ミ、計ヲ
以テ之ヲ陥レントス、摩哈麥之ヲ察シ、黙加ヲ出奔シ
テ麥地拿ニ往ク、麥地拿ハ古來ヨリ黙加ノ讐敵ナリ、
摩哈麥ノ來ルヲ聞キ、麥地拿人皆歡聲ヲ發シテ之ヲ
迎フ、亞刺伯人種々ノ圖画ヲ作りテ摩哈麥ガ逃亡ノ
状ヲ寫セリ、初メ天使伽布哩ル、早ク敵人ノ党ヲ結ン
デ摩哈麥ヲ殺サントスルヲ知ル、摩哈麥途ニシテ

敵人ニ逢フ、因テ一椀ノ粉未ヲ敵人ノ頭上ニ撒ス、敵
人目昧シテ視ルヲ能ハズ、摩哈麥去テ洞穴ノ中ニ匿
ル、敵人追ヒ至リシガ、其洞口ニ蜘蛛網ヲ懸ヒ、又二卵
ヲ容レタル鳩巢アルヲ見、敵人相謂テ曰ク、是レ豈ニ
人ノ入リシ洞穴ナランヤト、直チニ去テ他方ヲ尋ヌ、
是ヨリ摩哈麥鳩ヲ以テ神鳥ナリトシテ之ヲ崇メ、又
蜘蛛ノ網ヲ愛惜シテ之ヲ破ルヲナシ、基督教ノ徒、基
督ノ降世ヲ以テ紀年ノ始トセシ如ク、亜刺伯人亦摩
哈麥ガ夢地拿ニ遁レシ年ヲ以テ紀年ノ始トス、其年
ハ耶蘇生後六百二十二年七月十六日ノ事ナリ、亜刺

伯語ニ之ヲ希實拉^{サハラ}ノ紀年トイフ、希實拉ハ逃亡ノ義
ナリ、

○摩哈麥ノ定メシ教法ハ、簡易ニシテ知リ易シ、他ノ
先知人未ダ此ノ如キ說ヲ立シ者アラズ、是レ其教ノ
速カニ弘行セシ所以ナリ、其說ニ曰ク、天地間唯一ノ
上帝ト、其先知人摩哈麥アルノミナリト、然レ氏亦摩
西基督ヲ以テ上帝ノ使者トシテ之ヲ崇重ス、其教則
モ亦同ク簡易ナリ、曰ク日々沐浴シ、日々拜礼シ、定日
ニ斷食シ、常ニ貧人ヲ救ヒ、本國ノ神迹ナル賈巴^{カバ}ニ來
賽シ、飲酒ト豚肉ヲ食フヲ禁ズルト、是ナリ、摩哈麥ノ

言ニ曰ク、拜礼ハ天ノ半途ニ至ルベク、斷食ハ天門ニ達スベク、貧民ヲ救賑スレバ天門ヲ啓クヲ得ベシト、故ニ摩哈麥ノ教徒皆此諸件ヲ務メザルハナシ、此外ニ又大斷食アリ、是ハ此教ニテ行フ嚴覽トイヘル大祭ノ前日ニ於テ行フ者ニシテ、日没ノ時ヨリ飲食セズ、肉ヲ蓄ヘザルノ事ナリ。

○若シ民ノ新教ニ歸服セザル者ハ、劍戟ノカヲ以テ其心ヲ改メシム、摩哈麥曰ク、劍戟ハ天門ノ鑰匙ナリ、上帝ノ為ニ一滴ノ血ヲ流ス者ト、兵器ヲ執テ一宵ヲ過ス者ハ、其功德二月斷食シ、二月拜礼ヲ行フニ勝レ

リ、天上審判ノ時ニ於テ、篤信者ノ受ジ瘡痕ハ紅寶石ノ如ク光リ、乳香ノ如ク薫ズ、若シ戰場ニ命ヲ殞ス者ハ、天堂ノ侯伯ト為リ、水ニ富ミ樹蔭多ク、四時皆春ノ遊館ニ居リ、顔色美濃、老ニ至テ憔悴セザル處、女七十二人、其内ニ在テ奉侍シ、七万人ノ奴隸、願指ニ從テ奔走ス、摩哈麥ノ說ニ又謂ヘラク、人ノ運命ハ皆上帝ノ定ムル處ナリ、死スベシ、死スベカラズ、命ヲ戰場ニ殞スベシ等ノコトハ、各人ノ前額ニ標識アリテ決シテ之ヲ遁ル、コトヲ得ズ、上帝ノ愛護ヲ受ル處ノ者ハ、劍戟飛箭ノ中ニ突入スルトモ、決シテ死傷スルコトナシ、

○摩哈麥新教ノ徒一百人ヲ率_リ、還_リテ默加ヲ攻_ム、其徒皆深ク新教ノ説ヲ信ジテ勇氣百倍シ、遂ニ一千人ノ敵ヲ破_リテ默加ヲ取_ル、摩哈麥此時始メテ新教ヲ以テ盡ク全世界ノ民ヲ統轄セシト欲スルノ念ヲ發セリ、摩哈麥其腹心ノ門徒ト共ニ亞刺伯ノ全國ヲ周遊シ、或ハ口舌ヲ以テ民心ヲ結ビ、或ハ兵刃ヲ以テ其地ヲ取_ル、夫ヨリ更ニ君士但丁ノ皇帝（東羅馬皇帝）ヲ勸メ、基督ノ教法ヲ棄テ已カ新教ヲ奉ヤシメント欲ス、摩哈麥ガ最後ニ賈巴ニ來賽セシ時ハ、其從行ノ門徒十四万人アリ、摩哈麥已ガ素志ノ終ニ必ズ達セン

ヲ料_リ、深ク思慮スル所アリテ、六百三十二年、自ラ毒ヲ服シテ歿ス、死ニ臨ニテ精神靜定シ、快然トシテ逝ク、其屍ハ之ヲ鐵櫃ニ藏シ、麥地拿ノ寺觀ニ葬_リ、來拜者ノ敬畏ヲ起スガ為ニ、大ニ其寺觀ヲ壯麗ニス、○摩哈麥ノ死後ニ及ビ、門人等其平生教訓セシ所ノ語ヲ集メテ一書ヲ成シ、是ヲ可蘭（コーラン）ト名ク、回教ノ徒（回教）人、摩哈麥ノ教法ヲ稱シ、此書ヲ尊重スルヲ、猶基督教徒、聖經ヲ尊重スルガ如シ、其書ニ載マル處探ルベキノ言多シト雖、氏要スルニ異教タルヲ免カレズ、其書ノ目錄ニ據レバ、全書ヲ分ツテ二篇ト為ス、一ハ

教法ノ道理ヲ論ズ、是ヲ義萬トイフ、一ハ教法ノ典礼
ヲ論ズ、是ヲ儀トイフ、其教法ノ總名ヲ乙士藍トイフ、
已ノ欲ヲ制シテ上帝ニ信隨スルヲ義ナリ、其教門ノ
徒ヲ摩斯勒民トイヒ、祭司ヲ伊萬士トイヒ、上祭司ヲ
牧弗知トイヒ、修教士ヲ跣爾維トイフ、其祭日ハ金曜
日ヲ用フ、乙士藍教ハ其後分レテ二派ト為リ、更ニ細
分シテ教派ト為ル、其宗派ト稱スル者ハ是ヲ異福ト
名ク、此教派ハ可蘭ノ外又異那ヲ奉ズルヲ以テ此名
ヲ得タリ、異那ハ摩哈麥ノ口授スル所ナリ、此教門ノ
徒ノ摩哈麥ヲ尊重スルヲ漸々ニ甚シク、唯其教法ノ

ミナラス、其遺骨、其兵器、其衆馬、其畜驢ニ至ルマデ、皆
之ヲ崇ンデ神ト為ルニ至レリ、

第十一

大教師大教師ハ原語ヲカリフ、イフ、法裔ノ義ナリ、今海國圖志ニ從テ大教師譯ス、

○摩哈麥ノ第一世ノ法裔、即チ第一世ノ大教師ノ時、
回教ノ威勢益隆盛ニシテ、既ニ東方ノ全部ヲ領セリ、
亞刺伯ノ全部ノ全、此時基督教ハ、仁愛誠實ヲ以テ其根ヲ培
養スルニ、回教ハ之ニ反シテ、兵火ト劍戟トヲ以テ其
教ヲ擴メ、大海沙漠ト雖、其降ヲ阻遏スルヲ能ハズ、
亞刺伯人ハ回教ニ迷溺スルヨリシテ、却テ其勇氣ヲ

増シ之ヲ戰陣ニ用フルニ皆精兵ナラザルハナシ、其
軍隊ハ騎兵ト弓手トヲ以テ編組シ、婦人ノ如キモ亦
神軍ノ為ニカヲ盡サント欲シ、軍行ノ後ニ役ト以テ
其兵ノ勇氣ヲ鼓舞ス、其兵皆神軍ノ必勝ヲ信ジ、毫モ
敵ヲ畏ル、ノ氣ナシ、亞^ア呷^フ庇^ビ結^{ケル}、即チ第一世大教師老邁ノ年
ヲ以テ、亞刺伯人ヲ率テ叙利亞ヲ畧シ、大馬色革ニ至
ル、大教師阿馬^{アマ}第^{ダイ}二世ノ非^フ尼^ニ西^{セイ}ヲ奪ヒ、更ニ巴^バ勒^レ士^ス底^チ
納^ナニ入り、耶路撒冷ヲ陷ル、阿馬聖地ヲ取りシヲ以テ
其威ヲ示サント欲シ、自ラ赤色ノ駱駝ニ跨リ、一方ニ
ハ穀ト椰棗ヲ盛レル囊ヲ懸ケ、一方ニハ水ヲ盛レル

革囊ヲ懸ケ以テ行ク、此三物ハ大教師ノ日用ノ食料
ナリ、當初大教師ノ儉素想ヒ見ルベキナリ、亞刺伯人
ハ更ニ武ヲ海上ニ耀リシニ欲シ、利巴^リ嫩^ン山ノ巨材ヲ
伐リテ七百隻ノ船舶ヲ造リ、非尼西ノ海客ヲ雇フテ
水手ト為シ、羅底^ロ居^キ比^ヒ路^ロノ二島ヲ攻テ之ヲ取り、以テ
大ニ近國ヲ威懾ヒシム、

自註ニ曰ク、皇帝菲士巴^フ西^{セイ}那^ナノ時、希^シ臘^ラ人、羅底島ニ
希^シ普^フ神^{カミ}名^ナノ銅像ヲ建ツ、高サ一百零八尺、此像海
港ノ兩岸ニ跨リ、大船皆其跨下ヲ過グベシ、一足ヲ
大基礎ノ上ニ置キ、一手ニ大燈ヲ執ル、是ニ火ヲ點

ミテ航海者ノ標識ト為ス、世界七宏工ノ一ナリ、此像ハ數十年前地震ノ為ニ破壊セラレテ地上ニ崩倒ス、蓋得撒ノ猶大人亞刺伯人ヨリ之ヲ買ヒ、九百頭ノ駱駝ヲ以テ駄送セリト云フ、(九百八十四年)
○阿馬又埃及ヲ取り、亞勒山得黎ヲ攻陷ス、此地ハ有名ノ大都府ニシテ當時邸館四千、浴室四千、廣場四百、市鄴一万二千、猶大人ノ來リ住スル者四千人アリ、此地ニ又古代最モ藏書ニ富メル大書庫アリ、阿馬火ヲ放テ盡ク之ヲ燒カシム、阿馬ノ意ニ謂ハラク、可蘭ノ書ハ滿天下ノ書ヲ囊括シテ盡ク、其中ニ在リ、然レバ

此書庫ノ書亦用フル所ナシト、或ハ謂フ此書庫ニ藏スル所ノ書ハ、可蘭ノ書ノ未ダ説キ及ボサル所ノ者多シ、故ニ阿馬其已ガ教ニ害アルヲ畏レテ之ヲ焚キシ者ナリト、

○君士但丁ノ皇帝東羅馬皇帝希拉古流大ニ亞刺伯人ノ猛威ヲ懼レ、速ニ之ト和議ヲ結ビ、其亞刺伯人奪畧セシ地ハ盡ク之ヲ亞刺伯人ニ與フ、亞刺伯人ハ又歲幣ヲ希臘ニ納ンテ約ス、然ルニ忽チ約ニ背キテ歲幣ヲ納レズ、此時希臘人ハ志氣慊弱ト為リ、亞刺伯人ハ兵威強盛ナリ、強盛ノ民ヲシテ慊弱ノ人ノ約ヲ守ラ

シメントスルハ、亦能ハザル所ナリ、亞刺伯人ハ更ニ
海軍ヲ地中海ニ出シ、六百七十年、西齊里島ヲ攻テ之
ヲ取ル、是ニ依テ意大利全國大ニ震恐ス、六百七十一
年、更ニ小亞細亞ノ南岸ノ地ヲ取リ、六百七十二年、益
兵ヲ發シテ君士但丁城ヲ圍ム、君士但丁城ハ地勢宜
キヲ得テ當時天險ノ稱アリ、亞刺伯人ノ之ヲ攻ル_一七
年、屢戰_ヲ屢退ケラル、君士但丁ノ守城ノ功ハ、諸人皆
加利尼孤ヲ推シテ第一ト為ス、加利尼孤、硫黃、樹脂、其
他發燒シ易キ物ヲ以テ壺内又ハ筒中ニ實シ、之ヲ敵
船ニ投ズ、敵人ノ之ヲ畏ル、_一方今ノ炸彈ヨリ甚シ、此

燃料ハ水ニ入テ消セズ、唯土ト沙トヲ以テ之ヲ滅ス
ベシ、是ヲ名ケテ希臘火ト云フ、其煉和ノ法ハ、甚ダ之
ヲ秘セシヲ以テ、後來其傳ヲ失ヘリ、

○摩哈麥ノ教法ハ又埃及ニ入り、又ヨリ亞弗利加ノ
内地ニ蔓延セリ、亞弗利加ノ民ハ其生養風俗盡ク亞
刺伯人ノ風ニ倣ヒ其舊習ヲ棄テ速ニ摩哈麥ノ教法
ニ歸ス、唯毛裏達尼ノミ亞刺伯人ノ教法ニ從ハズ、亞
刺伯人ノ之ヲ攻ル_一數年、兩敵互ニ勝敗アリ、然レ其終
ニ亞刺伯ノ大將木輟ニ擊破セラレ、盡ク之ニ服屬ス、
亞弗利加ノ戰鬪甫メテ息、三亞刺伯人ノ威令全國ニ

行ハレシ後、又西班牙ノ西我特國ヲ亡スノ好機會ヲ得タリ、

○西我特國ハ其末年ニ至リ、庸懦ノ君代ル、出テ貴族ノ權威日ニ增長シ、大ニ國ノ衰亡ヲ兆セリ、七百十一年、羅武立トイフ者、其王微知撒ヲ追テ其位ヲ奪フ、王ノ子其重臣數人ト共ニ亞弗利加ニ走リ、亞刺伯人ノ援ヲ假テ羅武立ヲヒサン、一ヲ乞フ、木鞞ハ深ク之ヲ欲セズト雖、比姑ク其乞ヲ聽キ、其將大栗ニ命ジ、海峽ヲ渡リテ西班牙ニ入り、亞刺伯ノ教威ヲ示サシム、大栗其兵ヲ以テ安達羅西ノ海濱ニ着シ、加爾閑トイ

ヘル山上ニ砦營ヲ設ク、是ヨリ此山ヲ名ケテ曰伯拉大栗トイフ、大栗ノ山ト云ル義ナリ、方今ハ轉ジテ曰巴拉大トイフ、後年英吉利人此砦營ノ址ニ就テ城壘ヲ設ク、其堅牢壯固ノ知ル所ナリ、七百十一年、大栗、羅武立ト大ニ澤士特、拉弗倫的、刺ニ戰フ、羅武立陣歿シ、其軍潰散ス、微知撒ノ子、亞刺伯人ノ援ヲ得テ其敵ヲ亡ボセシト雖、亦其國ヲ再造スルヲ能ハズ、木鞞、西班牙ノ戰ノ利アリシヲ聞キ、自ラ兵ニ將トシテ來リ、繼ギ、大栗ト共ニ西班牙ノ諸邑ヲ撃テ盡ク之ヲ降ス、西我特ノ殘民ハ、亞斯都里ノ山中ニ竄シ、僅カニ

其教法ト自主トヲ保ツヲ得タリ、其後西班牙ノ地ニ二ツノ王國興リ、毎ニ亞刺伯ノ政治ニ抵抗セリ、一千四百九十二年、亞刺伯人ヲ西班牙ノ地ヨリ逐ヒ基督教ヲ全國ニ行ヒシハ、此二國ノ力ナリ、茂樹按ズルニ、西戎特ノ遺民、亞斯都里ノ山中ニ匿シ、尔後回教ノ徒ト屢爭戰セシヨリ、人皆勇悍、戰事ニ曉習シ、遂ニ其勇將伯拉朶ヲ推シテ王ト為シ、國ヲ亞斯都里ト號ス、其後又西班牙ノ地ニ那瓦勒、加達羅尼ノ二國興リ、同ク基督ノ教法ヲ奉ズ、是ヨリ數百年ノ間、此三國互ニ分合與廢アリテ、遂ニ加斯

德里亞拉岡ノ二國ト為ル、一千四百七十四年、加斯德里ノ女王以沙伯拉亞拉岡ノ王匪地難多第三子婚ンテ夫婦ト為リ、二國ヲ合ヒテ一國ト為ス、一千四百九十二年、兩王西班牙ノ加拉拿大ヲ取リ、回教ノ徒ヲ逐フ、本文ニ王國ノ名ヲ載ゼス、故ニ今之ヲ補フ、

○亞刺伯人ハ、西班牙ノ地ヲ取リシヨリ、益大志ヲ發シ、比里牛斯山ヲ踰テ法蘭西ニ入リ、獨逸、匈牙利ヲ經テ亞刺伯ニ還リ、兵威ヲ以テ諸國ノ民ヲ脅カシテ盡ク回教ヲ奉ゼシメント欲ス、七百三十二年、亞刺伯ノ

大軍西班牙ヲ發シテ東ニ向ヒ、悉ク途ニ當ルノ都邑ヲ搶壞シ、比里牛斯山ヲ踰テ、仏蘭西ノ境界ニ入ル、仏蘭西ヲ始メトシテ、歐羅巴ノ全國震悚セザルハナシ、幸ニシテ、仏蘭西ニ武勇卓越ノ名將アリ、其名ヲ甲列トイフ、亞刺伯人ノ來リ侵スヲ聞キ、親ラ劍ヲ提テ國人ヲ勵マシ、危險ヲ冒シテ、強敵ト雌雄ヲ決セント欲ス、波亞登ト都羅トノ間ニ廣坦ナル平原アリ、兩國ノ軍陣ヲ其地ニ張ル、撒拉斯ノ軍即チ亞刺伯ノ軍、山野ニ充満シテ、其氣勢已ニ仏蘭西ノ軍ヲ吞ム、撒拉斯人ハ可蘭ノ旨ヲ信ジ、天上永世ノ幸福ヲ享ニシ、ヲ願ヒ、死ヲ視

ルヲ歸スリガ如ク、踴躍シテ戰ニ臨ム、仏蘭西人ハ深ク上帝ノ威徳ヲ信ジ、衆心固結シ、其陣ノ堅キヲ鐵壁ノ如シ、兩軍鏖戰終日、夜ニ入テ、勝敗未ダ決セズ、仏郎克即チ仏蘭西ノ軍士皆兵器ヲ執テ、曉ニ徹ス、天將ニ明ニトスルニ及ビ、甲列丹ビ英氣ヲ鼓シテ、撒拉斯ノ陣ヲ衝突セントス、仏郎克ノ謀者報ジテ曰ク、敵將押達拉曼夜ニ乘ジ、手兵ヲ以テ、營ヲ拔テ走レリト、仏郎克ノ軍之ヲ聞テ、勇氣百倍シ、大呼シテ、撒拉斯ノ陣ヲ蹂破ス、撒拉斯人大ニ破レ、三十七万五千ノ死屍ヲ戰場ノ血中ニ漂ハセタリ、

○甲列ノ都羅ノ戰ハ七百三十二年第十月ノ事ナリ、
此戰捷ニ因テ歐羅巴ノ民ノ自主ヲ定メ、諸國ノ制度
法律ヲ護持シ、殊ニ基督教法ヲ助ケ、兇猛ナル東國ノ
異教ニ抗シテ正教ヲ樹立スルヲ得タリ、故ニ後世
此戰ヲ以テ古代ノ希臘人ガ波斯ノ大敵ヲ破リシト
同ク、歐羅巴史中ノ一大美事ト為ス、諸國ノ民甲列ノ
為ニ此戰捷ヲ賀シ、甲列ヲ稱シテ馬的^{マルテル}アルト云フ、馬的
アルハ戰槌ノ義ナリ、其夷狄ノ軍ヲ打碎ヒシトイフヲ
以テ此名ヲ命ゼシ者ナリ、

○亞刺伯人ハ此大敗ノ後他國ヲ攻伐スルノ熱心少

シヲ醒メ、是ヨリ一定ノ居所ヲ設ケ、會同協力シテ其
教法ヲ永久ニ傳ヘン^トヲ謀リ、古代ノ馬基頓人ノ如
ク、形勝ヲ相テ所々ニ城寨ヲ築キ、以テ其四近ヲ威制
ス、七百六十年、大教師亞曼速^{アマンサス}低格里河畔ニ八塔^{バタ}トイ
ヘル都邑ヲ創建シ、以テ大教師ノ居所ト為シ、廣ク貿
易ヲ通ジ、諸學諸術ヲ盛ニス、此時ヨリ埃及ノ改羅^{カイロ}
大ニ繁榮シ、通商貿易ノ中央ト為リ、是ヨリ亞勒山^{アレキサンダリア}得
黎ハ漸々ニ逡巡シテ繁華ヲ改羅ニ讓ル^ト、恰モ亞勒
山得黎ノ雅羅^{アレキサンダリア}ニ於ルガ如シ、亞刺伯人ハ印度人ト通
商セシヨリ、更ニ新ナル利益ヲ得、耕農ノ術日ニ開ケ

學術ニ關セル生業ヲ営ム者多シ、大教師ハ牀ク諸學
諸術ヲ守護保佑シ、所々ニ學校ヲ建テ、希臘ノ學士ヲ
招テ生徒ヲ教導セシム、是ニ依テ所々ニ書庫ヲ建ル
者アリ、教學ノ會社ヲ開ク者アリ、學士ノ旅行ヲ給助
スル者アリ、又西班牙ノ哥多瓦ニ於テモ大教師ノ居
所ヲ設ケ、其諸學諸術ノ盛ナルヲ八塔ニ超越シ、西國
ノ基督教ノ民モ其學校ニ入テ學ブニ至ル、亞刺伯人
ハ又醫術、數學、星學ヲ研究シテ其道ニ明ラカナリ、然
レ氏其星學ハ後來種々異端ノ教法ノ源ヲ開ケリ、中
古ノ時ノ書ニ多ク魔術ノ事ヲ載テ其事毎ニ教法ト

相依ル、其書大抵傳奇小說ノ類ニシテ其始ハ蓋シ亞
刺伯西班牙ノ回教ノ役ヨリ起リシ者ナリ、又亞刺伯
人ノ織レル地氈、金銀ノ刺繡、金類皮革ノ工作ハ年久
シク其美名ヲ擲ニシ、歐羅巴人モ之ニ及ブヲ能ハズ
トス、其皮革ハ多ク哥多瓦ニテ製スルヲ以テ哥多瓦
革ノ名ヲ得タリ、亞刺伯人ノ四方ヲ攻伐スル時ニ方
リ、天下皆其暴ヲ惡ミ其威ヲ怖レザルハナシ、然レ氏
一旦退テ其道ヲ修メ、上文ニ記スル如キ有益ノ諸事
ヲ勉ムルニ至テハ、後年歐羅巴ノ民ノ開化ノ為ニ多
少ノ功ナシト云フベカラザルナリ、

自註ニ曰ク我特ノ建築法ハ又亞刺伯人ノ造ル所ナリ、亞刺伯人ノ都邑ニハ大學院、觀星臺、分拆場等アリ、方今歐羅巴ニ於テ用フル學術ノ語言ノ中ニテ、^ル点竈術^ルアルゲ^ラト云ヒ、^ル天頂^ラセニスト云ヒ、^ル脚點^ラナゲ^ルト云ヒ、^ル灰汁塩^ラアルカリト云ヒ、^ル曆^ラアルマナクト云フノ類ハ皆亞刺伯ノ語ナリ、又^ル23ノ如キ算數字モ亞刺伯ヨリ傳ハリシ者ナリ、世人動モスレバ亞刺伯人ヲ以テ方今ノ^ル土耳其人ト比スレ^ル、土耳其人ハ學術ノ讐敵ニシテ亞刺伯人ト並ベ論ズベキ者ニ非ズ、

○亞刺伯ノ疆域漸々四方ニ擴張シ、諸種ノ民族其内ニ入ルフ以テ一政府ヲ以テ之ヲ統轄スルヲ能ハズ、是ニ於テ諸國ニ牧伯ヲ置テ各其地ノ政令ヲ委任ス、教法ノ如キモ一回教ノ中ニ幾多ノ支派ヲ分チ、其支派各党類ヲ立テ互ニ相仇視シ、皆其他派ヲ推倒セント欲ス、諸國ノ牧伯亦皆自立ノ志ヲ抱キ、名ヲ教派ノ分裂ニ假テ各其意ヲ達セント欲ス、是ニ依テ大教師ノ位號ヲ稱スル者處々ニ起リ、其大教師タル者多ク、驕情柔弱ニ流レテ、遂ニ他國ノ民ニ其地ヲ奪ハルニ至レリ、

第十三

佛郎克ノ家宰

○哥羅味豪邁ノ資ヲ以テ仏郎克ノ王國ヲ創立セシ
ハ前ニ已ニ之ヲ記セリ、第三節ヲ哥羅味卒ル後、其
國ニ奧地利東國ノ義紐地利西國ノ義ニ分チ、哥羅味
ノ諸子分ツテ其地ヲ領シ、巴黎斯、賽孫、阿連斯、麥都ヲ
以テ各其首都ト為ス、初メハ兄弟互ニ親和緝睦シ、其
父ノ遺志ヲ繼デ武威ヲ他國ニ耀シ、突赫克、白根のヲ
撃テ其地ヲ仏郎克ニ俟ス、終リニ至リ、兄弟互ニ仇怨
ノ心ヲ抱キ、其婦妻ノ如キモ同ク相憤恨シ、屢干戈ヲ

執テ相殘殺ス、其禍子孫ニ至リテ解ケズ、位ニ登ル毎
ニ必ズ蹀血ノ慘ヲ觀ルニ至ル、仏郎克國ハ此ノ如ク
連年ノ内亂ニ因テ法度解弛シ、人心變ジテ虎狼ト為
リ、政府ノ命ヲ用フル者少シ、其諸王モ亦終ニ其相殘
殺スルノ禍ニ懲リ、務メテ和平ヲ謀ラント欲ス、是ニ
於テ其祖先ノ威武ヲ紹グノ心ハ全ク消磨シ、其國政
ヲ家宰ニ委シ、唯閑暇無為ヲ以テ歲月ヲ送ルノ外他
ナシ、其家宰タル者ハ國ノ重官貴職ニ登リ、兵ヲ彀シ
テ專ニ征伐ヲ為ス、得、是ニ於テ國ノ大權全ク家
宰ノ手ニ歸シ、國王ハ宮中ニ閑處シテ毫モ威權ナシ、

唯一歲ニ一次初ハ三月ナリシガ後ニ五月ト為ル
牛車ニ駕シテ民ノ議會ニ臨ミ民ヨリ獻納スル處ノ
物ヲ受ケ家宰ノ定ムル處ノ法制ヲ申命ニ再ビ車ニ
乘ジテ宮中ニ還ルヲ以テ常トス

茂樹按ズルニ哥羅味四子アリ長ヲ智爾利トイヒ
又的阿特カト稱ス次ヲ施爾特珀爾トイヒ次ヲ哥
羅獨美トイヒ次ヲ哥羅爹尔弟ト云フ四子各哥羅
味ノ遺地ヲ分チ智爾利ハ壤地利ノ地ヲ得麥都ヲ
以テ首都ト為ス餘ノ三子ハ紐地利ノ地ヲ分チ巴
黎斯阿連斯賽孫ヲ以テ首都ト為ス四子ノ時仏郎

克ノ威勢猶強フシテ突林克白根のヲ攻テ之ヲ降
シ又盡ク西戎特ノ地ヲ取ル五百五十八年餘ノ三
子及ビ其孫子相尋デ皆没シ哥羅爹尔一人佛郎克
全國ノ王ト為ル五百六十一年哥羅爹尔卒スルニ
及ビ國ヲ其四子沙利伯尔昂多蘭西格伯尔施尔北
栗ニ分ツ是ニ於テ佛郎克國復分レテ四ト為ル此
事後ニ仏郎克國內乱ノ基ト為レリ是ヨリ以來仏
郎克ノ諸王ハ皆貪冒惰慢放肆酒食ノミヲ事トシ
君德日ニ缺ク其兄弟ノ間ニ起レル釁隙ハ一ハ沙
利伯尔ノ子十キヨリ起リ一ハ西人ノ婦人ノ國政

ニ預ルヲ起レリ、其婦人ハ一ヲ不路尾希^{ブルニヒル}ルトイ
フ、西格伯^{シグバ}ノ妃ニシテ其性傲慢ナリ、一ヲ弗勒^{フレ}的
僱^ヒ一ヲ施^シル北栗^{キリ}ノ配ニシテ多智兇悍ノ婦人ナ
リ、此亂ヨリ後ハ、佛郎克^{フランク}ノ諸王皆怠惰放肆ニ流レ
民事軍旅ニ心ヲ留メズ、唯酒食ヲ以テ日月ヲ消過
スルノミ、六百十三年施^シル北栗^{キリ}ノ子哥羅爹^{コロデル}尔^ル第二
位ニ即クニ及ビ、仏郎克國又合シテ一^ニ為ル、然ル
ニ東國ノ民ト西國ノ民ト其情趣ノ異ナルヨリシ
テ國中又分裂ス、六百二十二年王其長子達額^{タルベル}伯^バ尔^ル
ノ未ダ弱^ヤ評^ハシルヲ東國ニ封ジテ王ト為シ、家宰^{サマ}蘭

甸^{ヂン}ノ北賓^{キヒン}教長^{キョウチャウ}亞^ア尔^{アル}惱^{ノウ}ヲ以テ其政ヲ攝セシム、是ヨ
リ哥羅爹^{コロデル}尔^ル王其威權ヲ家宰ノ手ニ失ヘリ、元來家
宰ノ職ハ國王ノ起居及ビ其貨財ヲ看守スルノミ
ナリシガ、此時ヨリ大ニ威ヲ振ビ、全國ノ政權ヲ掌
握スルニ至ル、六百八十七年北賓^{キヒン}ノ孫希^{ヒル}尔^{アル}斯^ス達^{タル}ノ
北賓^{キヒン}、仏郎克國ニ其威權ヲ定ム、本文此間ノ世代ヲ
記スルヲ詳ナラズ、故ニ今之ヲ補フ、

○佛郎克^{フランク}ノ諸王皆其志氣ノ萎靡スルヲ此ノ如シ、此
時若シ家宰タル者毅然トシテ國事ヲ以テ自ラ任シ、
國王ニ代ツテ政令ヲ行フヲナクンバ、仏郎克國ハ忽

チ淪胥敗亡スベシ、家宰ノ内ニ於テ北賓^{パビン、カールマルテル}甲列馬^{マル}尔的^{テル}、
小北賓^{ハルスタル}ノ三人^{ハルスタル}モ傑出セリトス、

○北賓^{ハルスタル}ハ希^{ハルスタル}尔斯達^{ハルスタル}ノ人ナリ、希^{ハルスタル}尔斯達^{ハルスタル}ハ、列^{レー}日^ヂノ傷ニ
テ瑪^マ斯^ス河^スニ濱セル城寨ノ名ナリ、紀元後七百年ノ頃、
北賓家宰ノ名ヲ以テ佛郎克全國ノ權ヲ執リ、奧地利
紐地利ノ地ニ其政令ヲ行フ、北賓人ト為リ剛毅直諒
ナリ、故ニ國人皆之ニ倚賴シ、國王モ亦之ヲ敬重ス、然
レ庸弱ノ君ヲ以テ剛強ノ臣ヲ御スルハ固ヨリ能
ハザル所ナレバ、北賓遂ニ家宰ノ職ヲ以テ其家ノ世
官トスルノ法ヲ定ム、北賓卒シテ其子^{カールマルテル}甲列馬^{マル}尔的^{テル}の家

宰ノ職ヲ襲グ、七百三十二年、甲列撒拉斯人ト戦テ大
ニ之ヲ敗リシハ上文ニ見ユタリ、此一戦ニ因テ基
督教法ノ危難ヲ拯ヒシヲ以テ歐羅巴全國ノ民、仏郎
克ノ名ト甲列ノ名ヲ稱シテ之ヲ敬重セザルハナシ、
此戦捷ノ後甲列ハ其餘勇ヲ奮ヒ、弗里斯人ヲ撃テ之
ヲ降シ、又薩克索^{リキソニー}屈^{リキソニー}ヲ敗リ、獸畜ノ歳貢ヲ約シ、以テ兵
ヲ戢ム、

○甲列卒シテ其二子北賓^{パビン、カールマン}甲羅曼^{カールマン}其父ノ遺物ヲ分ツ
カ如ク、分ツテ其官職ヲ行フ、二三年ノ後甲羅曼ハ憐
憂ノ病アルヲ以テ官ヲ去テ精舍ニ入ル、是ニ於テ北

賓一人家宰ノ事ヲ行フ、北賓ハ其形体矮小ナルヲ以テ小北賓ノ名ヲ得タリ、然レ其膽力ハ甚タ壯大ナリ、北賓常テ闘獸ノ戯ヲ觀ル、傷ラニ北賓ガ体軀ノ小ナルヲ笑フ者アリ、北賓之ヲ聞キ、劍ヲ抽テ直ニ闘場ニ入ル、此時獅子ト水牛ト相闘ヒ、獅子將ニ躍ツテ水牛ヲ嚙ントス、北賓劍ヲ揮ツテ獅子ノ頭ヲ斫ル、頭中斷シテ劍ノ餘勢深ク水牛ノ頸ニ入ル、觀ル者驚愕ヒザルハナシ、此ノ如キ勇剛ノ男子、水々虚名ヲ戴キテ膝ヲ屈スルノ前ニ屈スルヲ甘ンビザルハ、亦已ムヲ得ザル處ナリ、是ヨリ前、北賓ハ已ニ國王ノ威權ヲ

得シト雖ヒ、其名ハ猶家宰ニ止マリシヲ以テ、更ニ國王ノ名位ノ得ント欲ス、是ニ於テ使者ヲ教上殿加利ノ許ニ遣ハシ、新ニ王位ニ登リテ全國ノ收權ヲ掌握スルト、舊來ノ名號ヲ守リテ國王ニ服事スルトヲ可否ヲ問ハシム、教王、北賓ノ意ヲ承テ答テ曰ク、王位ニ登リ、王號ヲ稱シ、國ノ全權ヲ掌握スルヲ以テ最ヒ可ニシテ要ナリトスベシト、北賓、教王ノ言ヲ用ヒ、七百五十二年、綿斯ノ大教長簿尼哈斯ヲシテ佗郎克ノ王冕ヲ捧ゲシム、是ニ於テ加魯令ノ家佗郎克ノ王位ニ登リ、第三節ヲ參墨羅彬ノ家ノ最後ノ王施尔得力ハ

諾曼的ニ遷サレテ道院ノ内ニ閉錮セラル、

○北賓教王ノ恩ヲ感シ、之ヲ奉ズル一甚ダ辱シ倫巴
多人中意大利ノ地ヲ侵セシト聞キ、而度兵ヲ帥井亞
力伯山ヲ踰テ意大利ニ入り、倫巴多人ヲ撃テ其侵地
ヲ復シ、盡ク之ヲ教王ニ與フ、是ヨリシテ教王、教務ノ
外、更ニ世務ニ関スルノ途ヲ開ケリ、

○北賓ノ英名四方ニ榮ギ、他國ノ君長皆懇親ヲ結ン
デ朋友ト為フ、フニ一ルハ、希臘ノ皇帝公止但丁哥布
祿尼摩北賓ノ風琴ヲ贈ル、仏郎克人ハ此時初メ
テ風琴ヲ見テ未ダ其機關ノ結構ヲ知ラズ、聚リ視テ

之ヲ驚異セザルハナシ、當時記者ノ言ニ曰ク、始メテ
此器ヲ見シニ、初メハ雷ノ如キ壯音ヲ發シ、次デ笛ニ
似タル好音ヲ發ス、其妙驚クベシ、一婦人ノ此樂器ヲ
奏スルヲ聞シ者、恐愕シテ氣ヲ絶シ、復起ガリシトナ
リ、

第十四

佛郎克ノ王甲利曼カリマン或ハ甲利泰甫又ハ沙立漫ニ作ル

○北賓ノ子甲列父ニ繼デ仏郎克ノ王位ニ登リ、其弟
甲羅曼ト分ツテ其國ヲ治ム、甲羅曼在位三年ニシテ
卒ス、是ニ於テ甲列獨リ仏郎克ノ王ト為リ、南ハ亞力

伯山、西ハ比里牛斯山ニ至ルノ大國ヲ治メ、甲列大王、
又甲利曼ト稱ス、甲利曼ノ時、仏郎克國其隆盛ノ極ニ
至リシハ、恰モ亞歷山德ノ時、馬基頓國其隆盛ヲ極
メシガ如シ、仏郎克國ノ四面ハ皆戰ヲ好ムノ強敵ト
界ヲ接シ、其強敵タル者屢獲得、兵ヲ率テ入テ侵暴
搶掠ヲ為シ、或ハ全國ヲ取ラントヲ謀ル者アリ、故ニ
仏郎克ノ君タル者ハ勇武絶群ノ者ニ非ザレバ其國
ヲ護持スルコト難ハズ、甲利曼ノ如キハ帝其國ヲ護持
スルノミナラズ更ニ四隣ヲ征伐シ、大ニ其疆土ヲ擴
ハ、故ニ甲利曼在位四十六年ノ間、大抵兵陣ノ間ニ歲

月ヲ送り、其兵革ヲ用ヒザリシハ僅一年ノ間ニ過ギ
ザリシコト、

○仏郎克ノ南方ニ亞基答尼トイヘル民族アリ、
丹ニ在ル亞刺伯人ト陰ニ相通ジ、屢兵ヲ舉テ仏郎克
ニ叛ク、甲利曼ノ征伐ハ此亞基答尼人ヲ伐ツヲ以テ
始メトス、甲利曼亞基答尼人ノ備ハザルニ乘ジテ之
ヲ叢擊シ、大ニ敗テ之ヲ降ス、

第十五

甲利曼薩索尼ヲ擊ツ

七百七十二年

○其後甲利曼ト薩索尼人トノ戦作ル、此戦甚カ劇烈ニシテ年ヲ費ス、亦又シ此時薩索尼人ハ易北河ト下萊因ト北海ノ間ノ廣衍ナル地ニ居住セリ、其地林莽沼澤多ク、是ヲ以テ國ノ堡障ト為ス、其民勇敢強毅ニシテ、其祖先ノ法度本國ノ風俗ヲ以テ、之ニ加フル者ナシトシテ之ヲ固守シ、他國ノ威勢ヲ蔑視シテ之ヲ懼レズ、仏郎克人ノ驕傲ナルト其教法トヲ惡ミ、之ヲ仇トスルノ心深シ、仏郎克國ニテハ、國王ノ意ヲ以テ自主ノ民ノ生業ヲ制シ、又人君民ヲ傷フト雖氏民之ニ報ズル能ハザルトス、薩索尼人大ニ之ヲ不可

ナリトシ、謂ヘテク勇剛ノ人ハ自主ノ民ノ天ニ非ズト、勇剛ノ人毎一其カヲ以テ王位ニ登ルヲ得、故ニ斯ク言フ、薩索尼人、仏郎克ノ風俗教法ヲ惡ハ、甚シキヨリシテ屢、仏郎克ノ地ニ入リ、其財ヲ掠メ其人ヲ殺ス、仏郎克人威カヲ以テ薩索尼人ヲ盤伏セントセシニ其事成ラズ、仏郎克人亦勇敢強毅ノ性アルヲ以テ遂ニ黙シテ止ハ、能ハズ、初メ小北賓兵威ヲ以テ薩索尼人ヲ脅シ、年々三百頭ノ馬ヲ貢セシ、又薩索尼ノ地ニ基督教ヲ行フヲ妨礙スルヲ無ラシム、然ルニ薩索尼人、仏郎克ヨリ遣レル教士ヲ殺シ、教院ヲ燒キ、大叫シテ林莽ノ内ニ入

リ、以テ其自國ノ神壇ノ下ニ歸リ聚ル、甲利曼立ツニ
及ビ、謂ヘラク薩索尼人ノ強悍ナル、兵カヲ以テ全
之ヲ制服スルニ非ザレバ、遂ニ鎮靜ノ日ナク、本國ノ
安全ヲ固フスルノ期ナカルベシト、又教法ノ旨趣ヨ
リシテ、薩索尼國ニテ奉ズル人ヲ以テ牲トスル如キ
兇惡ノ異神ヲ驅除シ、強テ基督ノ教法ヲ其地ニ行ハ
シメントス、七百七十二年、甲利曼國ノ^リ荷摩ニ會シ
テ薩索尼ヲ伐ツノ^リヲ議定ス、是ヨリ薩索尼ト兵連
リ禍結ブ、一三十三年ノ久シキニ至リシハ、甲利曼始
メヨリ之ヲ料ラザリシナリ、仏郎克人ハ素ヨリ薩索

尼人ヲ惡ミシニ、今國王ノ命アリシヲ以テ踴躍シテ
戰ニ臨ミ、薩索尼人ノ備ヘザルニ乘ジテ其地ニ入リ、
搶掠殘破ヲ行ヒ、進ニテ耶勒士堡^{ハレムボルト}ヲ攻ム、此地ハ薩索
尼人ノ崇ニテ聖地トスル所ニシテ、中ニ神殿及ビ祭
司ノ居宅ノ最モ大ナル者アリ、又民ノ祭事ト民ノ集
會アリ、以テ全國ノ民ノ為ノ逃匿所アリ、此逃匿所ハ赫
爾曼^{ルマン}上篇第一^ル百一^ルヲ崇祀スル為ニ作シ、或ハ云フ
軍神瑪爾斯^{マルス}ヲ崇祀スルヲ以テ墨爾斯堡^{メルス}ト名クト、或
ハ云フ女神^ハ拉ヲ崇祀スルヲ以テ耶勒士堡^ハト名ク
ト、甲利曼其城ヲ攻陷シ、其堞牆ヲ崩倒シ、其地ヲ改メ

名ケテ亞命斯堡トイフ、薩索尼人大ニ畏怖シ、質子ヲ
送りテ和ヲ乞フ、甲利曼ハ此時意大利ニ事アリテ兵
ヲ其地ニ發セザルヲ得ザルヲ以テ、薩索尼人ノ乞ヲ
韋トシテ和議ヲ結ブ、

第十六

甲利曼倫巴多ヲ滅ス、

七百七十四年

○此時倫巴多ノ王ヲ特西忒留ト云ヒ、巴非亞ヲ以テ
國ノ首都ト爲ス、甲利曼特西忒留ノ女ヲ娶テ妃ト爲
ス、然ルニ一年ノ後之ヲ離異シテ倫巴多ニ還ス、特西

忒留甲利曼ノ不信ヲ怒リ、其女ノ爲ニ怨ヲ報ビ、ト
欲ス、然レ匹類ニ甲利曼ニ向テ戦ヲ起サス、陰ニ仏郎
克ノ故王甲羅曼ノ二子ヲ誘シテ巴ガ黨與ト爲ス、二
子其母ト共ニ倫巴多ニ來リ、特西忒留ノ宮中ニ居ル
特西忒留教王哈的練ニ乞ヒ、二子ニ塗膏シ、以テ仏郎
克ノ王ト爲ンヲ求ム、哈的練肯カズ、特西忒留兵ヲ
以テ羅馬ニ入り嘗テ小北賓ガ教王ニ與ヘシ地ヲ奪
フ、教王窮窘シ、仏郎克ノ力ニ頼テ倫巴多ノ禍ヲ免カ
レント欲シ、急ニ援助ヲ甲利曼ニ乞フ、甲利曼始メハ
寛和ノ處置ヲ以テ事ヲ了セント欲シ、特西忒留ニ說

キ、教王ニ向テ仇敵ノ心ヲ懷クヲ止メ、其侵地ヲ教
王ニ返サントテ請フ、特西武留傲然トシテ答テ曰ク、
我得ル所ノ地ハ我永ク之ヲ占領スベシ、若シ強テ之
ヲ取ラントスル者アラバ、我亦強テ之ヲ守ラン、我力
固ヨリ壯ク此地ヲ守ルニ足レリト、甲利曼之ヲ聞キ、
急ニ令ヲ下シテ其兵ヲ集メ、之ヲ分ツテ二軍ト為シ、
甲利曼自ラ其一軍ニ將トシ、塞尼斯^{セニス}、自拿^{ミナル}、
密^ミノ雪ヲ踏デ意大利ニ入リ、其役子ニ命ジ、他ノ一
軍ニ將トシ、茹斯山^{グリス}ヲ踰テ同ク意大利ニ入ラシメ、倫
巴多ノ平地ニ相會ス、是ヨリ西軍相合シ、怪雲ノ下岳

スルガ如ク、其勢已ニ倫巴多ノ全國ヲ壓ス、特西武留
大ニ辟易シ、野獸ノ聲ヲ負フガ如ク、奔遁シテ其巢穴
ニ還リ、其都城ノ堅固ヲ恃ミ、以テ仏郎克ノ師ニ抗セ
ント欲ス、甲利曼ハ別軍ヲ以テ巴非亞ヲ攻囲セシメ、
自ラ羅馬ニ来リテ教王ニ謁ス、教王及ビ教長教士ヨ
リ國民ニ至ルマデ、各礼儀ヲ整ヘテ甲利曼ヲ迎フ、國
民呼デ曰ク上帝ノ名ヲ以テ来レル仏郎克人ノ幸福
ヲ祝セント、甲利曼軍ヲ歛メテ羅馬ニ入ル、教王聖彼
得ノ礼拜堂ニ於テ甲利曼ヲ饗ス、羅馬ノ民皆環リテ
之ヲ視ル、世界ノ両大人^{教王ト甲利}會合シテ懇親

ニ接遇スルノ狀ハ國民ノ為ニハ實ニ一世ノ大觀ナ
ルベシ甲利曼ハ夫ヨリ耶蘇使徒ノ墓ニ謁シ其父北
賓ガ羅馬ノ教院ニ獻ゼシ地ヲ更ニ申固シテ變改ス
ルヲ無ラシム

○佛郎克ノ軍巴非亞バビヤヲ攻ルバビヤ六月城兵力盡キ門ヲ
開テ降ル甲利曼特西忒留ヲ擒ニシテ之ヲ道院ノ中
ニ閉錮シ倫巴多ヲ以テ仏郎克國ニ併ス是ヨリ甲利
曼ハ自ラ仏郎克兼倫巴多ノ王ト稱ス甲利曼倫巴多
ノ民ヲ馭スルヲ智アリテ寛大ナリ其從來ノ法律制
度ハ其ニ之ヲ改ムルヲナク又民ノ自主ヲ許ス一舊

ノ如シ倫巴多ハ五百六十八年ニ國ヲ建テ七百七十
四年ニ至リ合セテ二百零六年ニシテ亡バ

第十七

薩索尼人甲利曼ニ叛ク

○甲利曼意大利ニ在リテ攝政務ヲ處分スルノ間ニ
薩索尼人皆畔ノ飛報ヲ得タリ薩索尼人ハ前年ノ敗
ヨリ其自主ノ權ヲ失ヒ憤悶スル一甚シ是ニ於テ其
大將威威ウィウィノ下ニ立テ仏郎克ノ地ヲ侵シ放火殘殺
ヲ行フ甲利曼之ヲ聞キ直チニ兵ヲ率テ起テ再々ア
カ伯山カールスヲ越テ獨逸ニ入り忽チ擊テ薩索尼人ノ叛乱

ヲ平ラグ、然ルニ此時倫巴多ノ地ニ於テ弗里漚ノ部
長兵ヲ與シテ仙郎克ニ叛ク、甲利曼因テ薩索尼人ト
和シ、唯箕子ノミヲ取りテ其服降ノ約ヲ固フスルニ
及バズ、速カニ意大利ニ還リテ弗里漚ヲ伐ツ、弗里漚
甫メテ平ラグ時、又薩索尼人ノ叛背ノ報ヲ得タリ、威
的斤ハ英雄ニシテ第二ノ赫尔曼ト稱セラル、甲利曼
ノ意大利ニ往シヲ聞キ、復タ林莽中ヲ跳リ出テ凡ソ
甲利曼ガ與造セント欲スル處ノ者ハ盡ク之ヲ破壊
ス、然ルニ甲利曼突然トシテ獨逸ノ地ニ現ハレ出シ
ヲ以テ復タ降服スルヲ傳ノ如シ、甲利曼其服従ノ心

ヲ固フセシムルガ為ニ、其民ヲシテ洗禮ヲ受ケシム
民ノ之ニ従フ者多シ、甲利曼命ジテ處々ニ教院ヲ建
テ、教士ニ命ジテ基督教ノ種子ヲ異教ノ田野ニ蒔カ
シ、其民ヲシテ漸々強暴ノ風ヲ變ジ、礼義ノ俗ト為
ラシメント欲ス、和議ノ度毎ニ得タル箕子ハ、甲利曼
盡ク之ヲ精舎ノ内ニ送り、其中ニ於テ學業ヲ勉メシ
メ、後年ニ至リ、歸リテ其國人ヲ教導セシメント欲ス、
是ヨリ以來薩索尼人ハ其倔強慍悍ノ氣大ニ折ケ、腰
ヲ屈シテ仙郎克ノ王命ニ従フノ意ヲ顯ハセリ、其明
年即チ七百七十七年、甲利曼薩索尼ノ巴德奔^{バルボレン}ニ於テ

大ニ仏郎克人ノ會議ヲ開キ、薩索尼人ヲシテ仏郎克
ニ服従スルノ誓約ヲ為サシム、薩索尼人多ク來リ會
シ、若シ薩索尼ノ法律制度ヲ改ムルヲナク、又其民ノ
自主ヲ許サバ、甲利曼ヲ戴テ君主ト為ニテ約ス、此
時又薩索尼人ノ洗礼ヲ受ル者多シ、威的介ハ支リテ
噠國ノ王ニ依リ、此會議ニ來リ會セズ、

泰西史鑑中編卷之二終